

心理臨床研修【5時間を基本とした講義セット】

※臨床心理士のポイント更新可能

研修No	研修テーマ	講義	講義形式	講義時間	講師	受講料
B-1-1	人々の暮らしを支えること (320分)	人々の暮らしを支える礎となるもの —法と医療の視点から—	○	67分	安倍嘉人 (元東京高等裁判所、長官) 神庭 重信 (九州大学、名誉教授) 村瀬 嘉代子 (大正大学 名誉・客員教授)	8,800円
		人々の権利を守る社会制度の仕組み	△	48分	増沢 高 (子どもの虹情報研修センター、研究部長) 高橋 温 (NPO法人子どもセンターてんぼ理事長、弁護士) 畑山 麗衣 (NPO法人Giving Tree、ピアカウンセラー)	
		家庭内紛争の中にいる子どもの心理	○	46分 44分	安保 千秋 (都大路法律事務所、弁護士) 熊上 崇 (和光大学、教授)	
		家族 —我が国における家族の変遷—	◎	60分	神谷 哲司 (東北大学、教授)	
		家族像とアイデンティティ —養育における身近な大人の役割—	□	55分	神谷 哲司 (東北大学、教授) 松永 忠 (社会福祉法人別府光の園、統括施設長) 国分 美希 (社会福祉法人至誠学舎立川 至誠大空の家、施設長)	
B-1-2	日々の実践を考えるためのヒント (296分)	日々の実践を振り返る	◎	53分	増沢 高 (子どもの虹情報研修センター、研究部長)	8,800円
		事実への接近 —法律家として—	◎	60分	金矢 拓 (四季の風総合法律事務所城南オフィス、弁護士)	
		さまざまな分野における事実の取り扱い —医療、福祉、教育、司法、産業 各分野の実践における見方・考え方—	□	67分	神庭 重信 (九州大学、名誉教授) 黒木 俊秀 (九州大学、教授) 増沢 高 (子どもの虹情報研修センター、研究部長) 石隈 利紀 (東京成徳大学、教授) 橋本 和明 (国際医療福祉大学、教授) 金井 篤子 (名古屋大学、教授)	
		心理的支援の実践と研究成果：科学的根拠	◎	58分	岩壁 茂 (立命館大学、教授)	
		心理専門家の責任とクライアントの責任 —心理職の仕事とは—	◎	58分	森田 美弥子 (名古屋大学、名誉教授)	
		人間のこころにひそむもの —人が人を理解するということ—	◎	60分	森岡 正芳 (立命館大学、教授)	
B-1-3	人間理解の諸相 (291分)	脳とこころの発達 —脳科学の知見から—	◎	58分	黒田 公美 (東京工業大学 生命理工学院、教授)	8,800円
		人間のライフ・サイクルと心理社会的成長 —愛着に焦点を当てて—	◎	105分	遠藤 利彦 (東京大学、教授)	
		人間の理解、人間存在の理解 —スピリチャリティの面から—	△	68分	神庭 重信 (九州大学、名誉教授) 島菌 進 (東京大学、名誉教授)	
		生命倫理 —医療の高度化と倫理—	◎	67分	香川 知晶 (山梨大学、名誉教授)	
B-1-4	いのちと尊厳を考える (301分)	生命と存在に関わる真実告知 —病名の告知—	◎	40分	久保田 馨 (日本医科大学、教授)	8,800円
		生命と存在に関わる真実告知 —出自の告知—	◎	80分	柘植 あづみ (明治学院大学、副学長・教授)	
		いのちの誕生 —NICUにおける支援—	◎	54分	永田 雅子 (名古屋大学、教授)	
		インフォームド・コンセントと協働による意志決定	◎	60分	田中 康雄 (こころとそだちのクリニックむすびめ、医師)	
		文化における普遍性と多様性 —進化心理学、社会心理学、人類学の視点から捉える—	○	37分 35分 35分	長谷川 真理子 (総合研究大学院大学、前学長) 外山 みどり (学習院大学、名誉教授) 波平 恵美子 (お茶の水女子大学、名誉教授)	
B-1-5	こころと文化 (341分)	心理的支援の実践における文化 —こころの治療と文化との関わり—	◎	62分	江口 重幸 (東京武蔵野病院、名誉副院長)	8,800円
		マイノリティの文化と心理的支援 —さまざまなマイノリティと多様性の理解—	○	45分 38分 21分	加賀美 常美代 (目白大学、教授) 熊谷 晋一郎 (東京大学、准教授) 葛西 真記子 (鳴門教育大学、教授)	
		文化間移動のこころへの影響 —外国につながる子どもの理解と支援—	◎	68分	徳永 智子 (筑波大学、准教授)	
		生活と心理臨床	◎	62分	滝川 一廣 (あなはクリニック、医師)	
B-1-6	生活から心理支援を考える (310分)	生活の営みとこころ —児童養護施設における暮らしを通して考える—	□	73分	増沢 高 (子どもの虹情報研修センター、研究部長) 松永 忠 (社会福祉法人別府光の園、統括施設長) 国分 美希 (社会福祉法人至誠学舎立川 至誠大空の家、施設長)	8,800円
		司法・犯罪関連施設における生活と関係性の治療的意味 —児童自立支援施設における支援と子どもの育ち—	△	62分 27分	富田 拓 (北海道家庭学校樹下庵・網走刑務所医務課、医師) 村瀬 嘉代子 (日本心理研修センター顧問 大正大学客員名誉教授)	
		逸脱行動の背景にある愛着の課題や発達の課題の理解 —事例をもとに—	○	86分	富田 拓 (北海道家庭学校樹下庵・網走刑務所医務課、医師) 野坂 祐子 (大阪大学、教授) 田中 康雄 (こころとそだちのクリニックむすびめ、医師)	
		多職種連携・協働の理念 —医療制度、教育制度から考える—	○	74分	中尾 智博 (九州大学、教授) 石隈 利紀 (東京成徳大学、教授)	
B-1-7	多職種連携の実践に必要な力とは —各分野における多職種連携— (324分)	連携・協働に必要な実践力 —福祉、司法の現場から考える— ①情報共有するための事例の記録と報告	○	60分	増沢 高 (子どもの虹情報研修センター、研究部長) 橋本 和明 (国際医療福祉大学、教授)	8,800円
		連携・協働に必要な実践力 —産業、教育の現場から考える— ②連携・協働するためのコミュニケーション・相互コンサルテーション	○	95分	三宅 美樹 (株式会社トヨタ車体研究所) 田村 節子 (東京成徳大学、教授)	
		司法関係者等との有効な連携を図るためのアセスメントと関わり —司法分野におけるアセスメントと司法面接—	○	38分 57分	寺村 堅志 (常磐大学、教授) 仲 真紀子 (理化学研究所、立命館大学、教授)	

心理臨床研修【5時間を基本とした講義セット】

※臨床心理士のポイント更新可能

研修No	研修テーマ	講義	講義形式	講義時間	講師	受講料
B-1-8	障害のある子どもとその家族への支援 (312分)	福祉領域における権利擁護と法制度 —障害福祉分野における権利擁護の考え方—	◎	31分	丹野 傑史 (長野大学、教授)	8,800円
		多職種協働による支援と心理職の役割 —障害福祉分野における多職種協働の考え方—	◎	30分	下山 真衣 (信州大学、准教授)	
		障害のある当事者、家族、支援者への支援と心理職の役割	◎	40分	田熊 立 (千葉県発達障害者支援センターCAS、副所長)	
		神経発達症・障害とこころ —発達障害を理解する—	◎	48分 51分	井上 雅彦 (鳥取大学、教授) 黒田 美保 (田園調布学園大学、教授)	
		神経発達症 (発達障害) の理解とその支援	◎	65分	黒田 美保 (田園調布学園大学、教授)	
		強度行動障害の理解と支援の実際	◎	47分	高橋 潔 (鉄道弘済会、理事)	
B-1-9	心理職として知っておきたい現代社会の課題① (307分)	自傷について	◎	61分	松本 俊彦 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所、薬物依存研究部部長(兼任)薬物依存症センター、センター長)	8,800円
		自殺 (自死) について	◎	57分	新井 肇 (関西外国語大学、教授)	
		暴力や加害の背景にあるもの	◎	56分	藤岡 淳子 (大阪大学、名誉教授)	
		虐待、DV、いじめ、ハラスメント —弱者への暴力を考える—	◎	75分	中村 正 (立命館大学、教授)	
		暴力の世代間伝達	◎	58分	野坂 祐子 (大阪大学、教授)	
B-1-10	心理職として知っておきたい現代社会の課題② (353分)	危機対応におけるコミュニケーション	◎	59分	平井 啓 (大阪大学、准教授)	8,800円
		災害における危機対応	○	38分 38分	河嶋 譲 (厚生労働省委託事業DPAT事務局次長、医師) 大澤 智子 (兵庫県こころのケアセンター、上席研究主幹)	
		医療化/心理化とメンタルヘルスケアの社会化	◎	78分	石原 孝二 (東京大学、教授)	
		こころの病とこころの薬	◎	55分	黒木 俊秀 (九州大学、教授)	
		依存症の理解と対応	◎	85分	松本 俊彦 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所、薬物依存研究部部長(兼任)薬物依存症センター、センター長)	
B-1-11	身体とこころについて考える (327分)	病気・障害とこころ	◎	45分	黒木 俊秀 (九州大学、教授)	8,800円
		身体とこころ —こころを身体の面から捉える—	○	82分	黒木 俊秀 (九州大学、教授) 熊野 宏昭 (早稲田大学、教授) 兼本 浩祐 (愛知医科大学、教授)	
		こころの病とこころの健康を考える —精神科医療における診断—	□	74分 46分	黒木 俊秀 (九州大学、教授) 山下 洋 (九州大学病院、特任准教授) 杉山 登志郎 (福井大学、客員教授)	
		心と体の境界域：慢性一次性疼痛の臨床	△	80分	黒木 俊秀 (中村学園大学、教授) 杉山 登志郎 (福井大学、客員教授)	
B-1-12	医療現場で働く心理職が知っておきたい基礎知識 (332分)	我が国の保健医療制度の現状と課題	◎	48分	吉川 隆博 (東海大学、教授)	8,800円
		チーム医療とリーダーシップ	○	46分 53分	畠山 卓也 (高知県立大学、准教授) 古村 健 (国立病院機構東尾張病院、心理療法師)	
		一般身体科領域における公認心理師への期待	◎	100分	服巻 豊 (広島大学、教授)	
		地域在宅医療における公認心理師への期待	△	85分	黒木 俊秀 (中村学園大学、教授) 若林 英樹 (三重大学、教授) 神田橋 宏治 (としま昭和病院 医師)	
B-1-13	医療現場の実践 (314分)	保健医療分野におけるトラウマインフォームドケア	◎	64分	大岡 由佳 (武庫川女子大学、准教授)	8,800円
		医療従事者の虐待対応とその後—TICの視点から	○	85分 21分 23分	毎原 敏郎 (兵庫県立尼崎総合医療センター、医師) 大岡 由佳 (武庫川女子大学 准教授) 黒木 俊秀 (中村学園大学、教授)	
		精神科急性期病棟における多職種連携	○	57分	黒木 俊秀 (中村学園大学、教授) 三井 智子 (京都大学大学院医学研究科 助教) 草地 仁史 (日本精神科看護協会 業務執行理事)	
		生活習慣と未病状態への支援	○	64分	神田橋 宏治 (としま昭和病院、医師) 竹中 晃二 (早稲田大学、名誉教授)	
B-1-14	学校現場におけるスクールカウンセラーの役割① 臨床心理士版 (317分)	教育の現状と動向	○	38分 35分	仲村 健二 (文部科学省児童生徒課生徒指導室、室長) 石隈 利紀 (東京成徳大学、特任教授)	8,800円
		学校組織とチーム学校の理解	○	42分 43分	山口 豊一 (聖徳大学、教授) 石川 悦子 (こども教育宝仙大学、教授)	
		危機への理解と支援	◎	58分	窪田 由紀 (九州産業大学、科研費特任研究員)	
		教育分野における課題と心理職の役割 —学校における支援に必要な視点—	□	101分	石隈 利紀 (東京成徳大学、教授) 家近 早苗 (東京福祉大学、教授) 水野 治久 (大阪教育大学、教授) 半田 一郎 (子育てカウンセリング リソースポート) 大石 幸二 (立教大学、教授)	
B-1-15	学校現場におけるスクールカウンセラーの役割② 臨床心理士版 (319分)	子どもの問題と心理教育的援助サービスのモデル	○	34分 49分	新井 雅 (跡見学園女子大学、教授) 大石 幸二 (立教大学、教授)	8,800円
		家庭や地域の問題と心理教育的援助サービス	○	36分 37分	水野 治久 (大阪教育大学、教授) 野田 正人 (立命館大学、特任教授)	
		教職員へのコンサルテーション・コーディネーション	○	29分 44分 30分	谷島 弘仁 (文教大学、教授) 小野瀬 雅人 (聖徳大学、教授) 小林 朋子 (静岡大学、教授)	
		チーム学校へのコンサルテーション	○	30分 30分	家近 早苗 (東京福祉大学、教授) 西山 久子 (福岡教育大学、教授)	
		不登校と社会的ひきこもり —社会的引きこもりについて—	◎	46分	斎藤 環 (筑波大学、教授)	

心理臨床研修【5時間を基本とした講義セット】

※臨床心理士のポイント更新可能

研修No	研修テーマ	講義	講義形式	講義時間	講師	受講料
B-1-16	学校現場におけるスクールカウンセラーの役割③ (310分)	不登校と社会的ひきこもり ー不登校についてー	◎	40分	伊藤 美奈子 (奈良女子大学、教授)	8,800円
		子ども (当事者) とのパートナーシップ	○	40分 32分 35分	水野 治久 (大阪教育大学、教授) 池田 美樹 (桜美林大学、准教授) 小栗 貴弘 (跡見学園女子大学、教授)	
		保護者、地域との連携	○	40分 50分	大河原 美以 (大河原美以心理療法研究室) 田村 節子 (東京成徳大学、教授)	
		子ども、学校組織・風土、環境のアセスメント	○	46分 27分	半田 一郎 (子育てカウンセリング リソースポート) 小野 純平 (法政大学、教授)	
B-1-17	児童福祉分野における心理職の実践 (323分)	福祉領域における権利擁護と法制度 ー児童福祉分野における権利擁護の考え方ー	◎	31分	高橋 温 (新横浜法律事務所、弁護士)	8,800円
		多職種協働による支援と心理職の役割 ー児童福祉分野における多職種協働の考え方ー	◎	43分	薬師寺 真 (倉敷児童相談所、所長)	
		子育て支援と心理職の役割	◎	33分	八木 安理子 (同志社大学、客員教授)	
		児童虐待対応の流れと心理職の役割	◎	45分	薬師寺 真 (倉敷児童相談所、所長)	
		生命と存在に関わる真実告知 ー出自を知ることー	◎	48分	山田 勝美 (山梨県立大学、教授)	
		社会的養護を必要とするこどもの支援と心理職の役割1: 小学校年齢児	◎	66分	藤原 誠 (子どもの虹情報研修センター、研修課長)	
		社会的養護を必要とするこどもの支援と心理職の役割2: 思春期・青年期	◎	57分	増沢 高 (子どもの虹情報研修センター、研究部長)	
B-1-18	高齢者福祉分野における心理職の実践 (303分)	福祉領域における権利擁護と法制度 ー高齢者福祉分野における権利擁護の考え方ー	◎	42分	加藤 伸司 (東北福祉大学、教授)	8,800円
		多職種協働による支援と心理職の役割 ー高齢者福祉分野における多職種協働の考え方ー	◎	35分	加藤 伸司 (東北福祉大学、教授)	
		認知症の理解と支援	◎	50分	繁田 雅弘 (東京慈恵医科大学、主任教授)	
		高齢者・その支援者を共に支える	◎	52分	繁田 雅弘 (東京慈恵医科大学、主任教授)	
		高齢者支援における高齢者と家族に対する心理的支援の実際	◎	65分	加藤 伸司 (東北福祉大学、教授)	
		老いと死 ー医療現場における看取りー	◎	59分	神田橋 宏治 (としま昭和病院、医師)	
B-1-19	司法分野における心理職の実践① (353分)	法制度と職業倫理のジレンマの中で	◎	61分	古村 健 (名古屋市立大学大学院、准教授)	8,800円
		医療観察法と公認心理師の役割 ー司法鑑定と事例検討ー	○	58分 49分	古村 健 (名古屋市立大学大学院、准教授) 西中 宏史 (早稲田大学、助教)	
		リスクアセスメントとクライシスプラン ー事例をもとにー	△	42分 24分 23分	古村 健 (名古屋市立大学大学院、准教授) 野村 照幸 (新潟医療福祉大学、教授) 黒木 俊秀 (中村学園大学、教授)	
		公的支援と民間支援のシームレス連携	□	96分	犬塚 貴浩 (大阪刑務所、法務教官) 谷 真如 (内閣府内閣サイバーセキュリティセンター、参事官補佐) 野村 和孝 (北里大学、准教授) 浅見 祐香 (目白大学、専任講師) 嶋田 洋徳 (早稲田大学、教授)	
B-1-20	司法分野における支援のための心理職の実践② (301分)	司法における人間へのまなざし	○	53分	廣瀬 健二 (元裁判所判事) 橋本 和明 (国際医療福祉大学、教授)	8,800円
		司法・犯罪分野における特有の感情の理解	◎	69分	門本 泉 (大正大学、教授)	
		反省や内省を促す心理職の関わり	○	45分 24分	石川 隆行 (宇都宮大学共同教育学部、准教授) 門本 泉 (大正大学、教授)	
		加害者支援と犯罪被害者支援	○	40分 33分 37分	寺田 孝 (川越少年刑務所、法務教官) 齋藤 梓 (上智大学総合人間科学部、准教授) 対談	
B-1-21	産業分野における心理職の実践① (313分)	現代社会とキャリア ーキャリア形成とその支援ー	◎	64分	下村 英雄 (独立行政法人労働政策研究・研修機構職業構造・職業指導部門、副統括研究員)	8,800円
		キャリアサイクル理論 ～新入社員のリアリティ・ショック～	◎	55分	道谷 里英 (順天堂大学、前任准教授)	
		組織論 ～若手社員のうつ反応～	◎	71分	佐藤 恵美 (メンタルサポート&コンサル沖縄)	
		組織マネジメント論 ～部長職による人材育成～	◎	68分	佐倉 健史 (さんぎょうい株式会社 メンタルヘルス・ソリューション事業室、室長)	
		多職種連携 ～関連職種との連携～	◎	55分	高野 知樹 (神田東クリニック、院長)	
B-1-22	産業分野における心理職の実践② (350分)	リーダーシップ論 ～女性研究職の登用～	◎	56分	大庭 さよ (メンタルサポート&コンサル東京)	8,800円
		社会集団・組織と心身の健康	◎	61分	山口 裕幸 (九州大学、教授)	
		外部EAP論 ～若手の退職事例～	◎	62分	田中 勝男 (公認会計士)	
		産業精神保健論	◎	60分	高野 知樹 (神田東クリニック、院長)	
		復職支援 (リワーク)	◎	60分	三宅 美樹 (トヨタ車体研究所)	
		多様性の時代の雇用 ～雇用における多様性を考える、人権、倫理、公正との関連から～	◎	51分	白木 三秀 (早稲田大学、名誉教授)	